



あまつう

Homepage



Blog



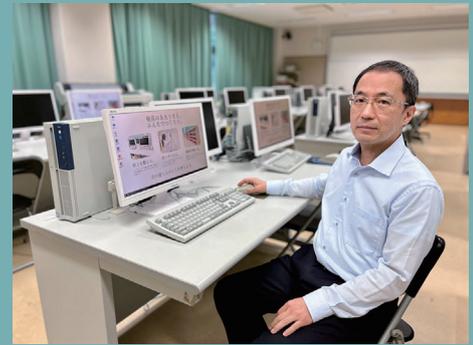
Instagram



「チャンスの神様には前髪しかない」

ギリシア神話の神様「カイロス」は前髪は長いですが、後ろ髪がない美少年であったとされています。捕まえることができれば幸運をもたらしますが、捕まえられるのは自分に最も接近した時に前髪を掴めた者だけというお話です。「しまった」と思って振り返って髪を掴もうとしても、カイロスの後ろ髪を掴むことはできません。

さて、今学校では、資格取得に向けて朝補習や朝自習が行われています。試験に向けて着実に実力を付け、1回のチャンスを掴む努力を惜しまないようにしましょう。「どうせ何回か受けられるから」という気持ちではなかなかチャンスを生かすことはできません。このことは他のことにも当てはまり、来たるべきチャンスに備え、日頃から準備をしておく大切さを示しているように思います。



校長 田中 耕一郎

NEWFACE

「あまこう」に143人の新入生が入学してきてくれました。これから、それぞれの学科で学びを深め、資格取得や部活動など自分の可能性を存分に伸ばしていってください!!期待しています!!

専門の資格取得!! 第一種電気工事士を取得したい!

電力会社に勤務している叔父から「資格をしっかりと取得しておくといいぞ!!」とすすめられ、機械電気科を選択しました。

専門的な授業は難しく感じますが、実習は毎回楽しいです!!在学中に第一種電気工事士の資格が取得できるように勉強を頑張りたいです。

「先輩が怖い」っち聞きますけど実際はみんな優しく、ホッとします。



商業科

吉田 直人 さん
Naoto Yoshida
朝日中学校出身

新しい自分の発見!! 商業科でスキルアップ!!

商業科の専門的な知識を習得できることがとても魅力に感じています!!

卒業後の進路は、未定ですが将来は奄美大島の観光や島を元氣することができる人になっていきたいです!

そのために日頃の授業や部活動などできることにどんどん挑戦していきたいです!!



機械電気科

山下 陽日喜 さん
Hibiki Yamashita
名瀬中学校出身

家政科

長 茉莉杏 さん
Maria Osa
小宿中学校出身

料理が好き!! 家政科の資格をとりたい

私は料理をすることが好きです。家政科には資格を取得したいと思って入学しました。

自分が思っている以上は「あまこう」での学校生活は忙しいですが、友達と話をしたり、授業で家政科の専門的な知識を学ぶことができるので、毎日が充実して楽しい学校生活を過ごしています。

衛生看護科

清 瑞貴 さん
Mizuki Kiyoshi
朝日中学校出身

毎日の実習が楽しみ!! 看護師を目指して 毎日が新鮮な日々!!

母が看護師をしていることもあり、私もその母の姿を見て、看護師になろうと思い衛生看護科に進学しました。

あまこうは、学校もきれいで、実習環境も整っているところが魅力だと思います。

専門的な授業や実習が始まっていますが楽しく取り組んでいます。



情報処理科

城 音羽 さん
Otoha Shiro
小宿中学校出身

スタートラインはみんな同じ!! 新しい分野にチャレンジ!!

情報処理や簿記などの専門教科の学びを深め、取得した資格が将来に直結することが大きな魅力だと感じています。

大学に進学したいと考えているので、自分の可能性をどんどん広げていきたいです。

今は勉強が苦手でも「あまこう」なら好きになるかも!!



あまこうの先輩に
フォーカスをあてる
「Chase Your Dream」
あまこうからの「ソノサキ」
で見た景色を後輩たちへ

“好き”だからこそ続けてこれた “好き”を続ける強い気持ち

「好きなことを仕事に」
世の中を見渡してどれだけの人
が自分の「好き」を仕事にできている
だろうか。高校生という多感な時期
は、まだ考えも定まらず、いろいろな
ものに気が移りやすい時期である。
それでいいと思う。高校時代にいろ
いろなものに触れて、「自分らしさ」
自分自身の「好き」をとことん探し
てほしい。

島崎さんは高校卒業後、自衛隊に
入隊。自分の本意ではない進路選択
だったこともあり、自分の本当にや
りたいことは何なのかを考えること
が多かったという。自衛隊での生活
は自分の「好き」とかけ離れていた。
その当時の生活は心が窮屈だったと
振り返る。

**2年間の任期を終え、選んだのは
大好きなアパレルの世界。経験も知
識もまったくなかったが、「好き」なこ
とを仕事にしたいという思いで原宿
にある大好きなブランドに飛び込ん
だ。そこで、7年間必死に勉強した。**

道のりは山あり谷あり
27歳で自身の思いを詰めこんだ
ブランド「devadurga」を立ち上
げた。奄美の伝統工芸である「泥染
め」の技法を施した商品が主軸であ
り、今も変わらぬコンセプトで走り
続けている。思いの詰まったブランド
も最初からうまくいったわけではな
い。立ち上げた当初の生活は、1日の
平均睡眠時間は、2時間。午前10時
から19時まで本業の仕事をして、
帰宅後食事と少し仮眠をとり、23時
から翌朝8時まで配送ドライバーの
仕事をする生活を5年間続けた。こ
の期間の生活を夜の副業で支えてい
たので、本業を軌道に乗せるために
は「やめる」という選択肢は一切な
かったという。振り返れば漆黒のライフ
スタイルだが、「好き」を続ける強い
気持ちで、島崎さんの背中を押し続
けた。

今が1番楽しい！
東京でスタートした憧れの仕事だ
ったが、ふるさと「奄美大島」での生
活がブランドのルーツということも
あり、32歳で念願の奄美大島に戻り
現在の店舗でもある「グナクリブ」を
オープンした。

「今が1番楽しい」と島崎さんは
楽しいそうに話す。その姿が印象的
で、その表情を見ているこちらもワ
クワクワしてきた。



住用町出身。奄美高校卒業後は、自衛隊に入隊。2年間任期後は、夢のアパレル業界へ。そこから幾多の試練や数多くの挑戦で得た経験と変わらぬ故郷への思いを胸に自身のブランド「devadurga」を立ち上げる。

現在は、名瀬伊津部町で「GUNACRIB」のデザイナーとして活躍中。店内には、奄美大島の楽しむためのアウドグッズやギアが取り揃えられている。

後輩たちへ

島を出てから、故郷の「海が青いこと、山の緑が濃いこと」に初めて気づく。1度飛び出ないと「奄美大島」の本当の良さは、知ることができない。高校時代で自分の「好き」が何なのか、自分を探してほしい。「好き」を仕事にして生きていくためにも、「今できることをがむしゃらに貫いてほしい」。何が「正解」なのかなんて、親にも先生にも、友達にもわからない。高校時代の甘酸っぱい思い出さえもこれからの人生の糧になる瞬間があるかもしれない。

今は踏み出せなかったり、「めんどくさい」とか、「だるい」とか思うことが多いかもしれないけれど、その中でも、「今、自分としっかりと向き合って、自分の『好き』を見つけること」を一生懸命やってほしい！応援しています！

